

【令和7年度 地域住民向け健康・終活講座 映画上映会】

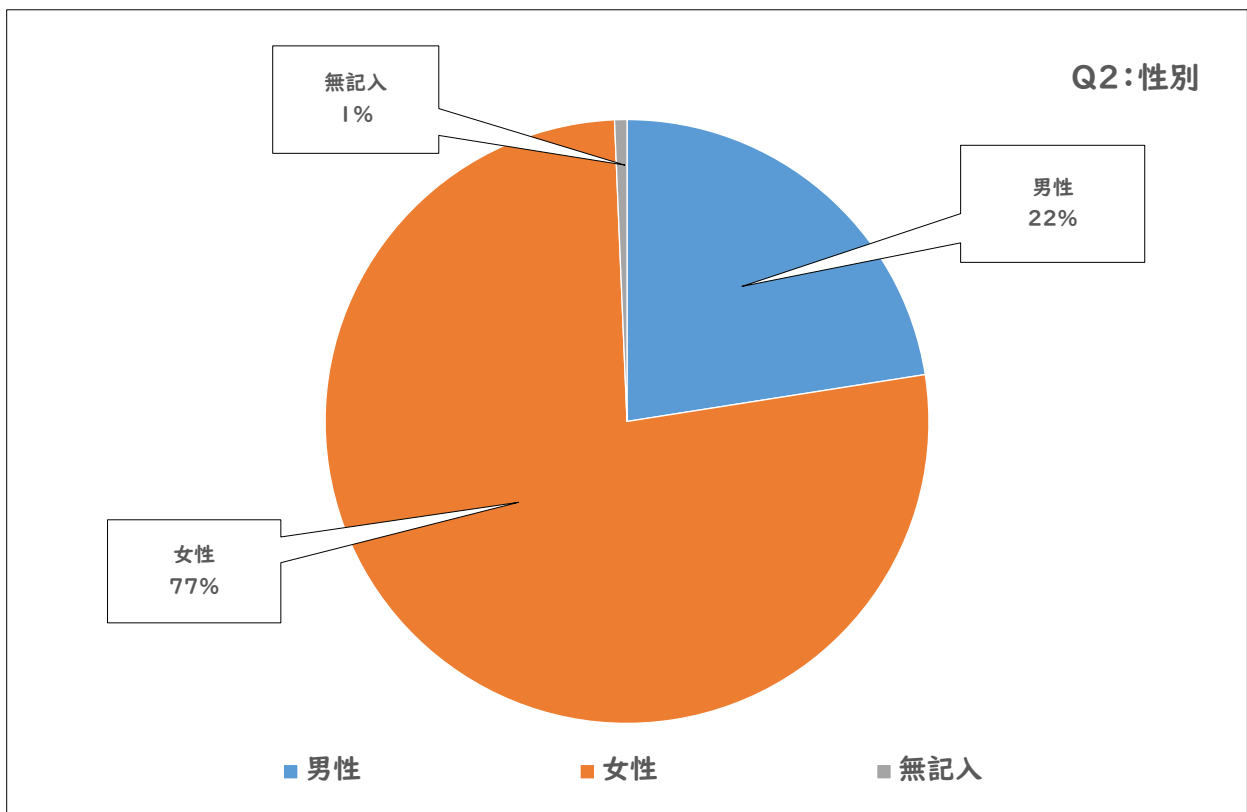
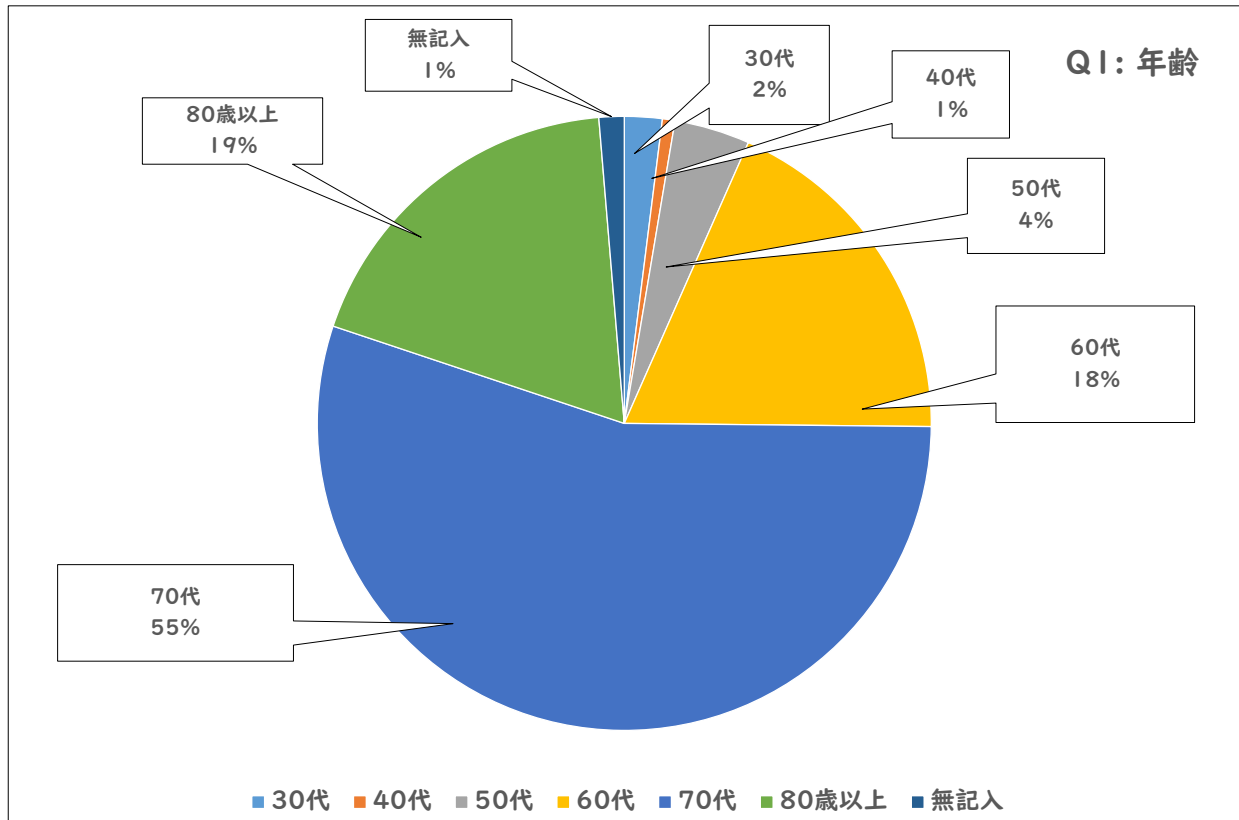
●開催日 令和8年3月27日(金)14時~16時

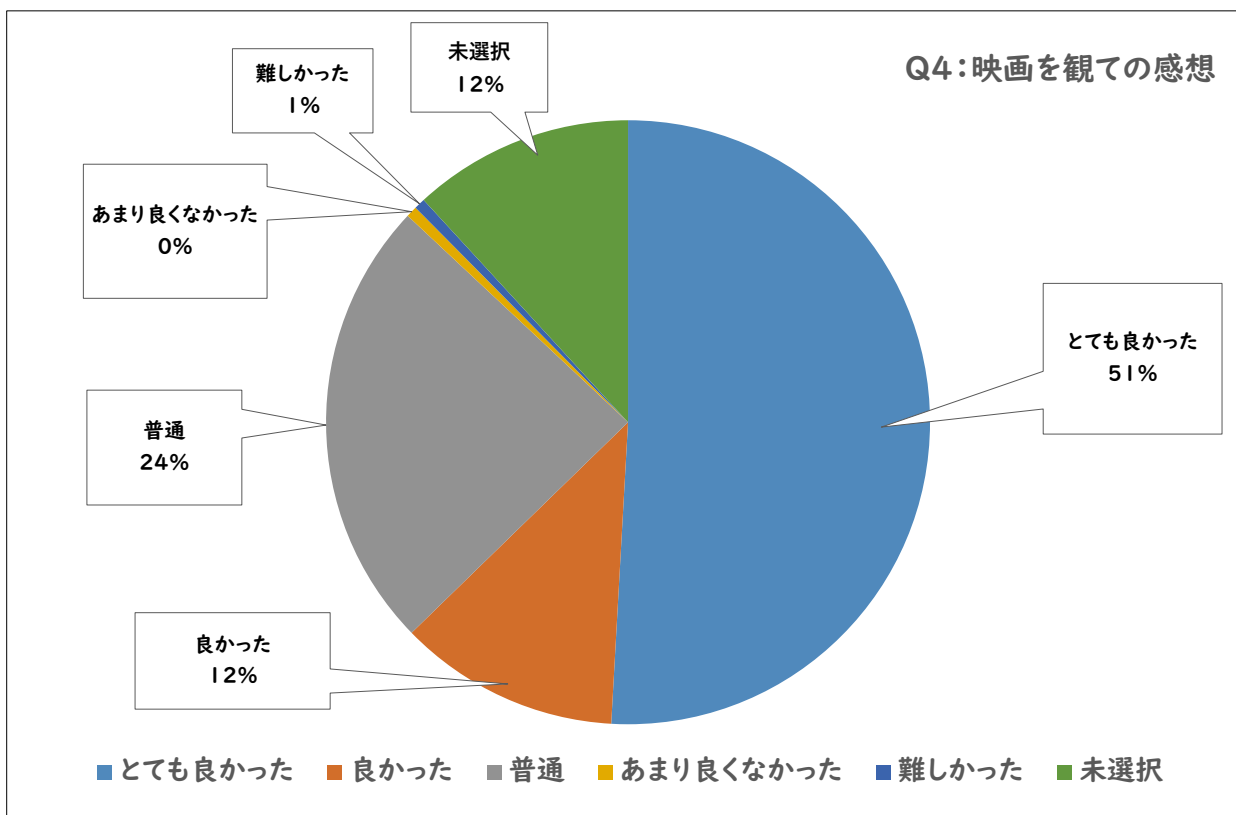
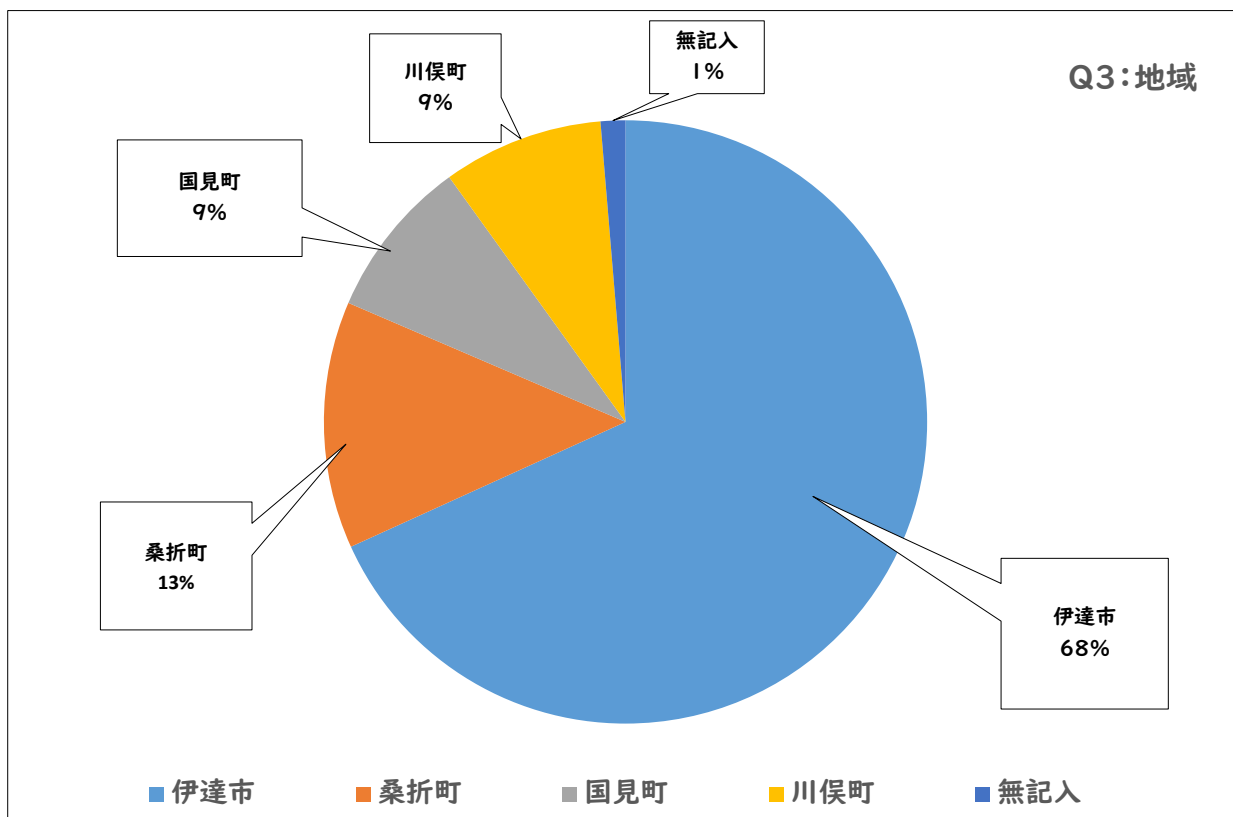
●上映映画「痛くない死に方」

●当日参加者 158人、参加率 86.8%(申し込み 182人)

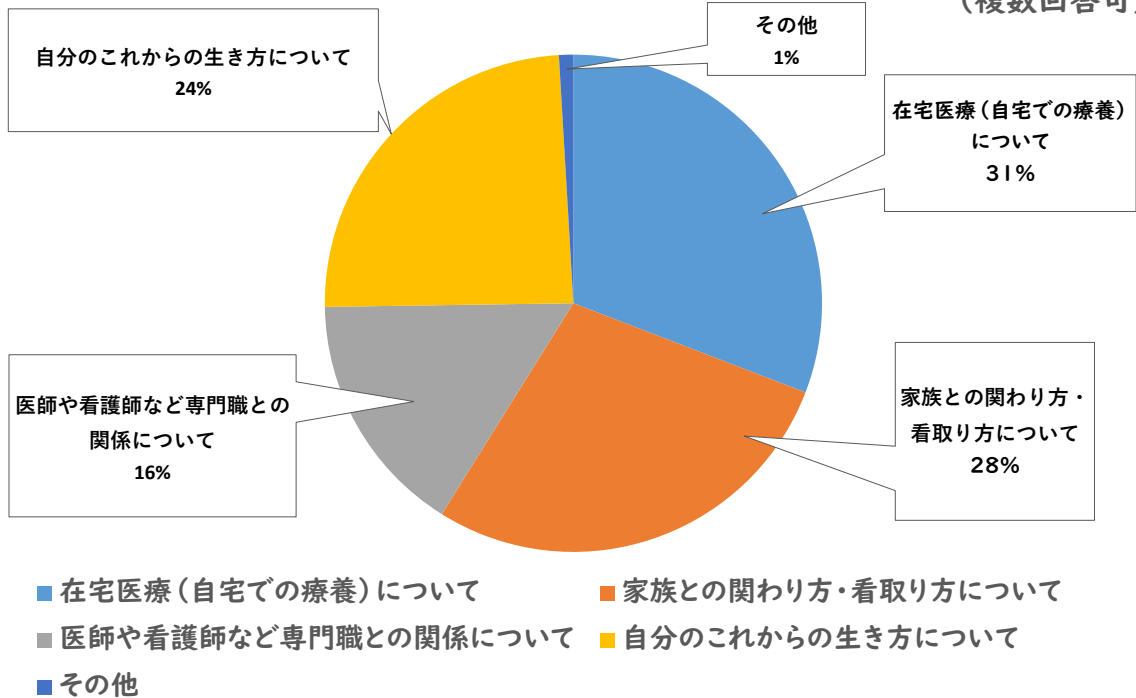
(伊達市:112名、桑折町:19名、国見町:14名、川俣町:13名)

●アンケート回答数 150人 回答率 83.3%

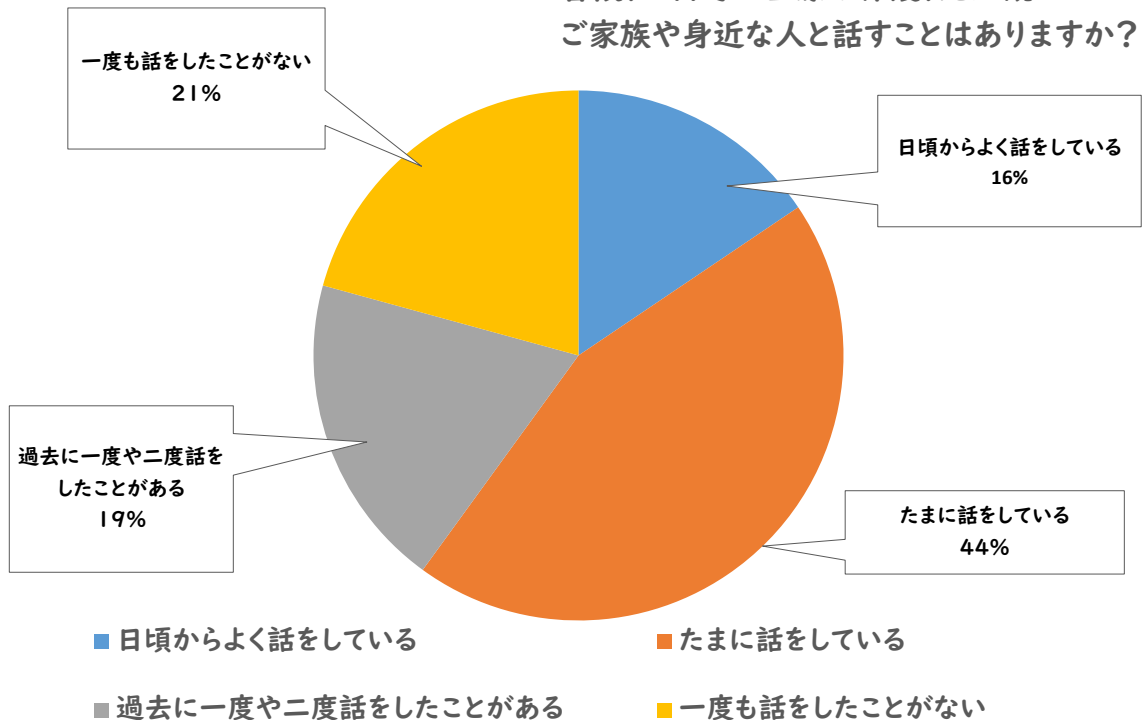




Q5:特に印象に残ったことや、考えさせられたことは？  
(複数回答可)



Q6:普段、ご自身の医療や介護、死生観について、ご家族や身近な人と話すことはありますか？



## ●映画を観ての感想（一部抜粋）

- ・ほっこりしてしまいました。
- ・私は在宅と思っていますが家族に負担をかけるようになるので考える。ピンピンコロリで行けるように。
- ・自分も枯れるよう用に死にたいと思います。
- ・先生が辛い体験から立ち直り変化していく姿に感動した。
- ・自分も尊厳を持って死んでいきたい。
- ・医師の成長がみられた。在宅での看取りの難しさを感じた。リビングウイルを書いておきたいと思いました。
- ・本を読んでいたの、...
- ・在宅での看取りについて、ほんにん・家族の覚悟（大変）、医師や看護師の選び方
- ・とてもリアルな演技で現実味があったのが良かった。
- ・自分の最期をどのように迎えたいか、今から家族と話し合いたいと思います。  
（夫の最期も聞いておく必要がありました）
- ・医師の思いやりを感じた。
- ・最期まで楽しく生きぬきたく努力したい。
- ・死んでいく事は、本当に大変な事だと思っています。
- ・自分のことのように考えるべきだと思った。
- ・在宅医療のリアルを感じられました。
- ・夫、義父、義母を送り自分のことに思いをはせます。在宅がいいのか、病院か、病院で終わりそうです。
- ・平穏死、両親の最期と重なり合って、深い感動と緊縛きんばくの命題だと思いました。  
living will書こうかなあと思いました。しかし、現実的にどうかかわっていくか検討、勉強してみたいと思います。
- ・若い先生がどんどん素敵になっていくのがよかった。  
いい先生とめぐりあえたら幸せだなあ。診療所のNsも奥田さん演じる医師も良かったです。
- ・勉強になりました。
- ・私も痛くなく死にたい。
- ・これからの人生のためにになりました。
- ・私も看護になる予定ですがとても勉強になりました。涙が出て仕方なかったです。
- ・生き方、在宅での最後の過ごし方について考えさせられた。
- ・大変良かったです。自分でもあんなのかと思うと、淋しくなります。  
家族の人も大変なので、みんなに申し訳なく思っています。
- ・在宅医療に携わる医師の成長がみられてよかった。
- ・自分のことを考える機会になった
- ・とても勉強になった。
- ・ユーモアを入れてもらって楽しく見ることができました。
- ・病院での最期も選択のひとつと思いますが、信頼できる在宅チームとの出会いや在宅医療も大切な選択肢のひとつと考えさせられました。
- ・複雑でした。
- ・在宅介護が良いと思いました。
- ・いろいろと考えさせられました。とてもよい映画でした。ありがとうございます。
- ・在宅医療は、医師のめぐりあいでも違うと思いました。
- ・自分もいつか通る道なので感動しました。
- ・両親の看取り方に少し心残りがあったがあれで良かったのだと思えた。
- ・看取りについて深く考える機会となった。

## ●今後の開催に関するご意見

- ・定期的に何か催し物を開催してほしい。
- ・今後も定期的に今回のような健康・終活講座、生きるとはなど命についての講座を開催していただきたいと思います。  
本日はありがとうございました。
- ・今後、たくさんの講座に参加いろいろ勉強したい。
- ・人生、初めての経験、講座で良かった。
- ・積極的に参加したいと思います。
- ・もっともっと。このような講座が多くあったらいいなあと思っています。
- ・いろいろな地域でこのような映画、講座などあれば、また来たいと思います。
- ・今後またこのような機会をふやして、他の方も考える機会があればよいと思う。
- ・また、お願いします。
- ・年齢相応の難聴になっており、音声ガイド（字幕）で助かりました。
- ・今後もこのような活動をしてください。
- ・もっと教えてください。
- ・この映画のような、人生の最後の過ごし方が分かる映画の開催をつづけてほしい。